# 子育てかわら版

所沢市立宮前小学校
令和４年度
No.03

## 「ほめて育てる」

宮前小学校のいろいろなところに「ほめて育てる」という短冊を目にします。今回は「ほめる」ということについて、少し考えてみたいと思います。

**ほめられる** ➡ **自分もまんざらではない**

**→次へのエネルギー**

### ほめるチャンスが見つからない→ほめるチャンスを意図的に作る

◎その子が密かに得意とすることを積極的にさせてみる、言わせてみる
「よくできるね」「よく知っているね」、時にはアイコンタクトでうなずくだけでも十分です。

人はほめられて承認欲求が満たされたときこそ自分自身を大事に思い、次への一歩を踏み出すものです。先生にとって子供をほめることは子供を伸ばす大事なツールです。そのための児童理解は欠かせません。

## 「子供を丸ごと受け入れる」

児童理解で大切なことは、子供を多面的・多角的に把握し、丸ごと受け入れる姿勢だと思います。

**長所** **短所** はもちろん、**癖** **こだわり** までも受け入れ、
唯一無二のその子らしさを認める。

ある子が万引きをしました。「あの子だったらやりかねない」と思うか、「寂しかったのだろうか」と思うかによって、大人の声のかけ方、目の合わせ方、肩の力の入り方等が違ってきます。

悪いと知っていながら誘惑の道に走った子供に、命令口調で要求ばかり伝えては、心に響きません。子どもは、自分ははじかれていることを感じます。その子の長所や良さを本物として大人が理解していないことになります。丸ごと受け入れるには、日頃からの子供との向き合い方が問われます。「偏った見方をしていないだろうか」「先入観で接してはいないだろうか」と自己点検が必要になります。

日々の子育ての中で子供のより深い良さが見つけられたら、児童理解が多面的に多角的に一歩進んでいるのです。
密かにガッツポーズです。

※「はくれんの会会報（令和3年10月号より）